

あとがき

我が国初めての画期的、近代的河川工事、淀川修築工事が開始された 1874 年(明治 7 年)から丁度百年目に当たる 1974 年(昭和 49 年)、「淀川百年史」が発刊されました。この大著は百年にわたる淀川改修の歴史を、現存する文献等の諸資料に基づき、深い考察、分析を加えてまとめられたものです。また単に改修の歴史だけでなく、琵琶湖・淀川が育む豊かな自然、そしてその自然の恵みの中で生まれた人々の暮らし、文化とその進化、変遷までも可能な限り著述しています。さらに考察の対象とする期間でみると、百年はおろか古琵琶湖が出現したとされる第三期鮮新世(およそ 500 万年前)にまで及んでおり、まさに「集大成淀川史」とも言うべき歴史資料となっています。このことから「百年史」は、淀川を愛し、興味を持ち、あるいは何らかの関わりを持つ多くの人々にとっての聖書とも言うべき役割を果たしてきました。

その後、時代は昭和から平成、令和へと移り、「百年史」以降のとりまとめられていない淀川の歴史も半世紀近くを積み重ねるに至り、国土交通省近畿地方整備局はこの空白を埋めるべく「淀川百五十年史」編纂の準備に取りかかりました。「百年史」の前史に当たる「淀川九十年史」編纂には十数年の歳月を要したことにも踏まえ、2019 年(令和元年)12 月に別記の 9 名からなる編集委員会が組織され、3 名に顧問をお願いしました。

既に「百年史」が存在することを前提としていることから、編集委員会ではまず「百五十年史」の中で「百年史」をどう取り扱うかが議論されました。両史がともに大部な資料となるため重複記載は極力避けることを原則とするが、事業期間が両史にまたがる事業については必要に応じ「百年史」の一部を引用する、もしくは参考先を明示することとした。なお「百年史」以後の新たな研究や調査、社会情勢の変化などにより、「百年史」に記載されている内容だけでは現在の状況が十分説明できない場合は、「百年史」を一部加筆、修正して「百五十年史」に記載することとした。

また「百年史」が単なる読み物としてではなく、歴史資料、参考文献として活用されていることに鑑み、「百五十年史」においても、災害被害の実態や策定・改定された計画等の事実だけでなく、災害のメカニズムや計画改定に至った経緯等の解説を含めて信頼度の高い出典を明示した上で積極的に記載することとした。一方で有力ではあるが定見とはなっていない考察(見解、感想)についてもその旨を明示した上で記載することとした。

以上の基本方針の下、延べ約 60 名の草案執筆者、約 100 名の査読者という膨大な労力と約 6 年の歳月を経て、ここに「淀川百五十年史」が完成しました。あらためてご尽力いただいたすべての皆様に衷心より感謝申し上げます。今後この書が淀川を愛し、興味を持つ人々にとっての入門書、解説書、参考資料としてご活用いただけるならば、編集委員一同これに勝る喜びはありません。

(令和 8 年 2 月 谷本光司)

淀川百五十年史編集委員会

委員長 谷本 光司

委員 今井 範雄
島田 健一
高木 多喜雄
道場 正治
持田 亮
森川 一郎
吉田 延雄

相談役 永末 博幸
宮井 宏
高野 浩二

事務局 近畿地方整備局 河川部
〃 淀川河川事務所
〃 琵琶湖河川事務所
〃 木津川上流河川事務所
〃 猪名川河川事務所
〃 大戸川ダム工事事務所
〃 淀川ダム統合管理事務所
〃 紀伊山系砂防事務所

水資源機構 関西・吉野川支社淀川本部

題字 斎藤 博之

淀川百五十年史

令和8年(2026)2月発行

編 集 淀川百五十年史編集委員会
編集・発行 国土交通省 近畿地方整備局